

行田ロータリークラブ

「ロータリーの未来は
あなたの手に」

RI会長: ジョン・ケニー / ガバナー: 加藤玄静

会長: 富田 久雄 / 幹事: 持田 朋春

例会日: 木曜日

クラブ会報委員会

午後 16:30開会

委員長: 小原 剛 / 副委員長: 境野 登章

委員: 廣世 雅昭・武笠 邦之介

会 場: ベルヴィアイトピア



第2134回 例会 (2009年10月22日)

第十六回 例会 卓話 骨髄バンク会長 大谷貴子様



- ★ 点鐘
- ★ ロータリーソング斉唱 第4週 それでこそロータリー
- ★ 四つのテスト
- ★ 来訪者紹介 富田 久雄会長
- ★ 会長報告 富田 久雄会長
- ★ 幹事報告 持田 朋春幹事
- ★ 委員会報告
- ★ 本日の卓話
- ★ 謝辞 富田 久雄会長
- ★ 出席・スマイル報告
- ★ 点鐘

★ 来訪者紹介

骨髄バンク会長の、大谷貴子様です。本日は、どうぞ宜しくお願い致します。

★ 富田 久雄会長

★ 会長報告

★ 富田 久雄会長

皆様、こんばんは。会長報告を申し上げます。先週はガバナー公式訪問ということで、皆様には懇談会・例会・クラブ協議会と長時間に亘りご協議いただきまして誠にご苦勞様でした。お蔭様で滞りなく終了することができました。さて、今月10月は米山月間ということですので、今期の寄付について考えてみたいと思います。今期は財団と米山を一緒にしまして「財団米山委員会」としまして、小池利昌パスト会長に委員長として頑張ってもらっています。しかし地区の研修など財団と米山が別々に開催されますので、不具合も生じております。ロータリー財団については全会員から年次寄付として130ドル、ポリオ撲滅寄付として50ドル、そして恒久基金寄付として20ドルの合計200ドル。日本円にして1人約2万円の予算を組んでおり、地区の目標額は達成しております。今日はロータリー米山記念奨学事業について原点を振り返ってみたいと思います。この事業は、全国のロータリーアンからの寄付金を財源として、日本で学ぶ私費外国人留学生に奨学金を支給し、支援する国際奨学事業であります。将来日本と世界とを結ぶ「架け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材育成することが事業の使命であります。この事業は50年以上も前「日本ロータリーの父」米山梅吉氏の遺徳を記念する事業として、1952年、今から57年前に東京ロータリークラブで、海外からの留学生を支援する国際奨学事業として創めたそうです。やがて日本全国のロータリークラブの共同事業として発展し、15年後の1967年に文部省、現在の文部科学省を主務官庁とする、財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されたそうです。特色としては、その規模のようです。米山奨学生の採用数は年間800人。これだけの外国人留学生を支援している奨学団体は、事業規模、採用数とも日本国内では民間最大だそうです。これまでに支援した奨学生数は累計で15,130人でその出身国は、世界116の国と地域に及んでいるそうです。とにかくこのプログラムはすばらしい活動をしています。～会長報告 次のページへ続く～

～会長報告 前のページより続き～

寄付の内容としては、普通寄付と特別寄付がありまして全収入14億5,200万円(2007-2008実績)のうち27.6パーセントが普通寄付そして、65.7パーセントが特別寄付の割合になっているようです。当クラブとしては、普通寄付として年間1人4,000円を計上しております。特別寄付について、米山委員長からまた改めてお願いが出されると思いますが、ぜひ積極的にご協力をお願い申し上げます。最近の実績を見ますと、歴代会長は必ず財団か米山のどちらかに約1,000ドル出されているようであります。私も会長として、特別寄付10万円を出させていただきます。ぜひ皆様もよろしくお願ひ申し上げます。以上で、会長報告といたします。ありがとうございました。

★ 幹事報告

★ 持田 朋春幹事



皆様こんばんは。今月は国際ロータリー第2570地区加藤玄静ガバナー公式訪問・第5グループ細井保雄ガバナー補佐訪問が無事に終了しました。改めて御礼申し上げます。有難うございました。

本日は、大谷貴子様ようこそ行田ロータリークラブへ。歓迎いたします。テーマとして「生きてるってシアワセ」大変心にしみ、また感慨深いものを感じております。懇親会にも出席していただきますので、最後までよろしくお願い致します。

1) 11月23日文化講演会後援の件で工藤市長・丸山教育長に訪問いたします。特別委員会の皆様よろしくお願ひいたします。

2) 国際ロータリー第2570地区2008～2009年度地区大会記録映像DVDが送られて着ました。

次回お配りいたしますのでご覧になって下さい。

3) 来週10月29日(木)例会は、定款細則により休会となりますが、第2回親睦ゴルフコンペが開催されます。

表彰式会場はふじみ鮎さんになりましたのでお楽しみに。

4) 11月5日(木)姉妹クラブ白河ロータリークラブ交換卓話です。新妻真孝会長エレクトにお願いをしております。

随行者は、鈴木邦典P会長・有賀弘会長・山本光子幹事・渡辺宗徹副幹事ご一行様です。市内観光後に歓迎会を5時からふじみ鮎さんで行いますので皆様のご参加をお願いいたします。

また11時より定例理事会が開催されますので、理事の方はお忘れのない様にお願ひいたします。

★ 委員会報告

職業奉仕委員会 稲垣功一委員長

皆様方の社訓・座右の銘などありましたら、事務局に提出して下さい。それから私の生業と言う事で、会員卓話をお願いします。お1人5分程度でお願いします。



★卓話講師紹介 小澤瑛プログラム委員長

以前大谷様の卓話を聞きました。私は非常に感動し、今回卓話をお願いしたところ、気持ちよくお引き受けして頂きました。大谷貴子様、どうぞ宜しくお願い致します。





大谷貴子様 卓話風景

1988年、私は慢性骨髄性白血病と診断されます。白血病は、いわゆる血液のガンです。内科医である父は、娘の私が白血病であると知ったその時、「ウチの娘が白血病になるはずはない」と言いながら泣き叫んでいたらしく、医師でさえも“不治の病”と考えるのが一般的な時代でした。そんな時代でしたが、幸い私には医療の先進国・アメリカに住む姉がいました。その姉が、最新の医療情報を仕入れて帰国して参りました。それが「骨髄移植」でした。骨髄移植と聞くと骨を切り取るものと誤解されるのですが、実際は骨髄液の提供で、患者である私には輸血と同じ要領で「移植」されます。しかし何方の骨髄液でも大丈夫なわけではなく、骨髄液の型が一致しなければ、移植はできません。患者と一致する確率が最も高い相手は、兄弟姉妹です。しかし我が家の場合、姉とは一致しませんでした。せっかく世の中に「骨髄移植」という治療法が確立されているのにその治療法が受けられない…。しかも、それは近い将来の“死”を示唆するものです。私には骨髄移植のチャンスすらない…。と知った時は、発病したときより恐ろしく、そして寂しいものでした。しかし、ここでまたアメリカと繋がっていた事が功を奏します。丁度その時、アメリカに骨髄バンクが設立された！という新聞記事をアメリカ人である義兄が見つけてくれます。当然の事ながら、渡米をしてでもその骨髄バンクに頼ろうと思えます。が、残念ながら骨髄液は人種により差があり、どこから見ても東洋人である私には西洋人の骨髄液の型は合致するはずがないのです。そこでひらめいたのが、「日本の骨髄バンクを探す！」事でしたが、今のようにインターネットで何でも検索できる時代ではなく、途方に暮れました。そんな私でしたが、医療のことは厚生省(当時)が管轄している事くらいは知っており、取り急ぎ霞ヶ関の厚生省へ走るのです。しかし驚愕の事実が！ 何と日本には骨髄バンクは存在しなかったのです。瞬時に感じた事は、「私はこの国に殺される！」でした。そしてその感覚を、そのまま体で表してしまうのです。目の前にいた厚生省の役人の胸ぐらをつかみ、「私を見殺しにするのですか！」と叫んでしまいます。勿論その役人の方の責任などどこにもありませんが、私は持っていきようのない怒りをその方に向けたのだと思います。そばにいた姉は、焦ります。このままだと妹はこの人を殴ってケガをさせてしまう…。そう思ったのか、私を諭すようにこう言ったのです。「骨髄バンクが日本にないのは誰の所為でもない。ないのはもうしゃあない事や。ないんやったら作ったらええだけや」と。私は反論します。「そんな私には間にあわへん！」と。さらに姉が言い返してきます。「そうやな、アンタには間にあわへんかもしれん。でも骨髄バンクを作る運動をしておいたら、のちに発病する患者さんが助かる。」と。私はショックでした。私は死んでも他の誰かが助かればいいと姉は思っているのか…。でも、実際は違いました。姉は「社会をうらみ家族をうらみ、自分の人生をうらみながら死なせる事だけはさせたくない。社会に感謝をし、自分が生まれてきた事を感謝しながら死んでいってほしい。」と思ったのです。人間いつかは必ず死ぬ。その時に、どう思いながら死んでいくのがいいのか…。そんなことを考えたようです。結局私は「私に間に合うように骨髄バンク運動をやろう」と考えたのです。決して他の方の為になど、聖人君子のような考えで行動を起こしたわけではありません。残念ながら…。しかし、それが私の命をよみがえらせることにつながります。日本国に骨髄バンクを作ってもらうためにした事…。それは請願署名でした。その署名活動を広めるためにマスコミの方々のご協力を仰ぎます。そして私の求める手～骨髄～がその先にあったのです。どの道にも専門家が存在し、マスコミ報道のおかげでその専門家に巡り合います。そして親子間では一致しないと言われていた、両親のどちらかからの骨髄移植を教えてもらうのです。～卓話 次のページへ続く～

～卓話 前のページより続き～

(親子間での一致が認められないのは、簡単に説明すれば父親から半分母親から半分、様々な遺伝子を引き継ぎ、子が形成されるためです)結果は母とすべての情報が一致し、骨髄移植の道が開けたのです。

骨髄移植後、三ヶ月で私は白血病から生還します。あれから20年。請願署名をはじめとする多くの方々のご理解とご協力で骨髄バンクがしっかり日本に根を降ろしました。骨髄バンクを通じて骨髄移植を受ける事が出来た患者さんは、既に1万人を超えました。と言う事は、直接会ったこともない人に骨髄液を分けて下さった方も1万人を超えたと言う事です。殺伐とした事件が後を絶たない昨今、本当に心温まる事です。この心温まる骨髄バンク運動に携われたことは、本当に幸せなことです。生きてるって本当にシアワセですね！

★ 謝辞

富田久雄会長

命がけで人を動かす力を感じました。
我々は、健康である事を、大変有難く感じます。
私たちも、少しでも力になればと思います。
本日は、ありがとうございました。



★ 出席・スマイル報告

★ 出席状況報告

T ・正会員数	55名
A ・85年規定承認者	14名
A ・理事会欠席承認者	1名
P ・本日の出席者	25名
B ・各承認者の例会出席者	4名
MU ・本日のメーキャップ者	5名
本日の出席率	68.2%

稲垣功一委員



★ にこにこ報告

稲垣功一委員

● 富田会長	大谷貴子様 本日は卓話ありがとうございます。歓迎いたします。
● 持田幹事	大谷貴子様 ようこそ行田RCへ 歓迎いたします。
● 永島健雄	行田市に利根川の還流水を水路に回し 美しい水辺の復活を実現しよう。皆様のご協力で運動を推進しましょう。
● 小沢 瑛	大谷貴子様本日は卓話よろしくお願ひ致します 相変わらず若くてきれいですね。
● 宮内廣介	前回のガバナー公式訪問例会には商用にて欠席しましてご迷惑をおかけいたしまして申し訳ありませんでした。
● 内山俊夫	本日は、忍中学校の音楽会でした、『口ひらき 心開けば 花開く』若者の歌声に感動した一日でした。
● 渡辺栄一	パソコン講習を受けたので、今日から上級の機械に取換え挑戦することにしました。
● 清水義夫	久しぶりの夜間例会、楽しみにしていました。
● 中島捷二	大谷様 夜間の卓話ご苦労様です 勉強させていただきます。
● 蔭山好信	遅刻しました 大谷貴子様 本日は卓話有り難う御座います。
● 武井 茂	大谷貴子様 本日は卓話有り難う御座います。
● 以下同文	湯本茂作、安部克也、小池利昌、岡田則之、小島一男、山本健作、碓井勝也 鴨田 武、石塚喜助、小椋 剛、古沢勇治、大野年司、稲垣功一
● 本日のニコニコ	30,000円 頂きました。ありがとうございました。(順不同にて報告しました。)

～ 懇親会 ～

開会



乾杯



懇談



締め

